

補助金もいららない

# 「自伐林家は儲かりますよ」と言う男

— 愛媛県西予市・菊池俊一郎さん

文 編集部 写真 大村嘉正

「皆さん、口を揃えて『林業は儲からない』といいますが、それはウソです」

明快に言っているのは、愛媛県の若手自伐林家・菊池俊一郎さん（42歳）。

「だって今の山は、あるもの切って出すだけですもん。うちの場合だって、山を買ったのは祖父やオヤジ。苗代払って植えたのも、下刈りとかの手入れをしたのも先代たちで、僕の代はもう育ったもんを切って売るだけ。何の投資もなしで、回収するだけですもん。普通に考えたら赤字になりようがない」

今の時代、自伐林家は儲かるようにできているのだという。

## 「1日3万円」を目安に山に入る

何せ菊池さんは、補助金をいっさいもらわずに経営を成り立たせてきた人だ。説得力がある。

ミカン2haと山28haの農家林家で、売り上げはミカンのほうが多いのだが、気持ちとしては山がメイン。ミカンは両親も一緒に家族でやるが、林業のほうは菊池さん1人でまわす。切るのも出すのも1人作業。所有機械は



菊池林業・菊池俊一郎さん。所有機械はチェーンソーと、平成元年に買って20年以上使っている林内作業車のみと、最小投資。道づくりに必要なバックホーは「年間150日以上稼働しないなら重機は元がとれない」と考えて、使うときだけレンタルする。大型トラックも持たず、出荷の際の配送は森林組合に頼む

チェーンソーと林内作業車1台のみだ。

実際に木を切るのはミカンの繁忙期以外の夏〜秋が中心だが、「山に入るなら、1日売り上げ3万円は確保する」という明確な目標を持って作業に当たる。1日3万円とは、経費を引いた所得でいうと1日1万2000円見当だそう。とてつもなく高い目標に思えるが、「そんなことないです。慣れてくれば誰でも可能な額」とのこと。ポイントはどうやら、「何でも自分でやる」ということと、

「造材の技」の二つのようだ。

## 何でも自分でやる——自伐だから儲けが残る

「林業は儲からない」と言う人に対して、菊池さんが自作した図がある（図1）。「木を切って市場で売るまでに経費はいくらかかるか？」を見たものだが、人に施業を委託するか自分でやるかで手取りがまるで違ってくる。ことが読み取れる。スギの場合で見ると、人件費を外に払ってしまうと残る木材代はたっ





木を切るときはまず全体を眺めて、造材の見当をつけてから。「これは……下から、曲がりの3、直の3、曲がりの3か4 (m) かな」

た1000円/m<sup>3</sup>。だが自分で切って搬出すれば3100円/m<sup>3</sup>残ることになる。  
単純なことだ。最大のコストアップは人に頼むことで、逆に最大のコストダウンは何でも自分でやること。林業ではなぜか伐出を人に頼む習慣がついている人が多いのだが、「自分でチェーンソー持って、少しずつでもや

ってみればいいのに」と菊池さんは思う。「そりゃ、オヤジたちの時代みたいに『ヒノキ1m<sup>3</sup>5万円』なんてことは今はないけど、自伐なら赤字経営は可能です。材価は下がってますが、やれない金額ではないですもん」菊池さんは木を切って出すのはもちろん、道も自分でつける。機械のメンテも経理も事

図1 伐出経費の内訳

市場経費・運賃・機械償却費・燃料代は、どうしてもかかる費用。さらに伐出を森林組合などに委託すると人件費もかかり、残りは100円/m<sup>3</sup>ということになってしまう。だが、自分で木を切って自分で出せば（自伐）、3100円/m<sup>3</sup>が自分に入る。菊池さんの目安とする1万2000円/日の所得のためには、自伐なら、スギで4m<sup>3</sup>/日を目標に仕事をすればいいことになる

